

平成 30 年度
全国公立大学学生大会
LINKtopos 2018
in Shizuoka
～つながり、つなげる～
(公立大学学長会議同時開催)
報告書

期日 平成 30 年 10 月 6 日(土)～8 日(月・祝)
会場 静岡県立大学 草薙キャンパス
静岡県立焼津青少年の家



公立大学学生ネットワーク

LINK topos

目次

0.はじめに.....	2
1.平成30年度大会プログラム.....	3
2.参加者の対象と推移.....	4
3.活動内容とその成果.....	6
3.1 大会1日目.....	6
3.1.1 オリエンテーション.....	6
3.1.2 エリア別活動紹介.....	6
3.1.3 1日目事後アンケート結果/参加者の声.....	13
3.1.4 1日目総括.....	15
3.2 大会2日目.....	16
3.2.1 スタートアップ.....	16
3.2.2 ワークショップ.....	16
3.2.3 2日目事後アンケート結果/参加者の声.....	19
3.2.4 2日目総括.....	21
3.3 大会3日目.....	22
3.3.1 エリア別ディスカッション.....	22
3.3.2 ポスター発表及びランチ交流.....	26
3.3.3 学生・学長合同シンポジウム.....	26
3.3.4 クロージング.....	28
3.3.5 3日目事後アンケート結果/参加者の声.....	29
3.4 プログラム全体を通して.....	33
3.4.1 プログラム全体の事後アンケート結果/参加者の声.....	33
3.4.2 プログラム全体の総括.....	34
4.次年度以降の学生大会開催に向けて課題、課題への提言.....	35
5.全国公立大学学生大会の今後の展望について.....	36
6.謝辞.....	37

0.はじめに

公立大学学生ネットワークが発足してから今年度で 7 年目となる。東日本大震災をきっかけに発足してから我々の活動は「災害・復興支援について公立大学が出来ること」から「公立大学同士での地域活動の連携強化」にシフトしつつある。昨年度の大会では公立大学同士で同じような活動をしている団体は全国に視野を広げれば多くあり、自身らが抱えている課題はその他の地域で同様の活動をしている団体に相談をすれば解決に近づける、という全国での「繋がり」を強化できる内容となっていた。全国的に相談ができるというのは本当に心強くもあり、切磋琢磨しあう機会として、今年度代表の私自身も昨年度の大会に参加して強く痛感した。

しかし、「繋がり」はあくまで相談仲間ということであり、互いとともに活動をするといった関係までは至らなかった。それは全国的に繋がりつつも、例えば東北と九州では物理的な距離のため、同様の活動をしていても相談はできても、ともに企画をし活動をするという関係にまでは至らなかった。

そこで今年度の大会では繋がりを強化していくことを目標とした。具体的には地域ごとでの「繋がり」の強化である。もちろん昨年度で達成された全国の相談相手をつくるという良い点も残しつつ、地域ごとの繋がりの強化である。そうすることにより、LINKtopos という場を通して、全国に相談相手を作るだけでなく、互いに達成したいことをともに企画し、実行をすることが出来るようになる。また、本大会中に企画を練る機会がある。この詰め込みすぎている内容を 3 日間で行うのはなかなか酷なことであることは重々承知しているが、本大会が参加者の今後の活動の糧になってくれることを信じてスタッフ 15 名でスケジュールを組んだ。

【LINKtopos2018 代表 秋田県立大学 システム科学技術学部 4 年 本田 和也】

1.平成 30 年度大会プログラム

<大会 1 日目>

15:00~15:45	オリエンテーション
15:45~16:50	分科会①
16:50~17:30	夕べの集い
17:30~18:30	夕食
18:40~20:00	分科会②
20:00~	入浴/自由時間/就寝

<大会 2 日目>

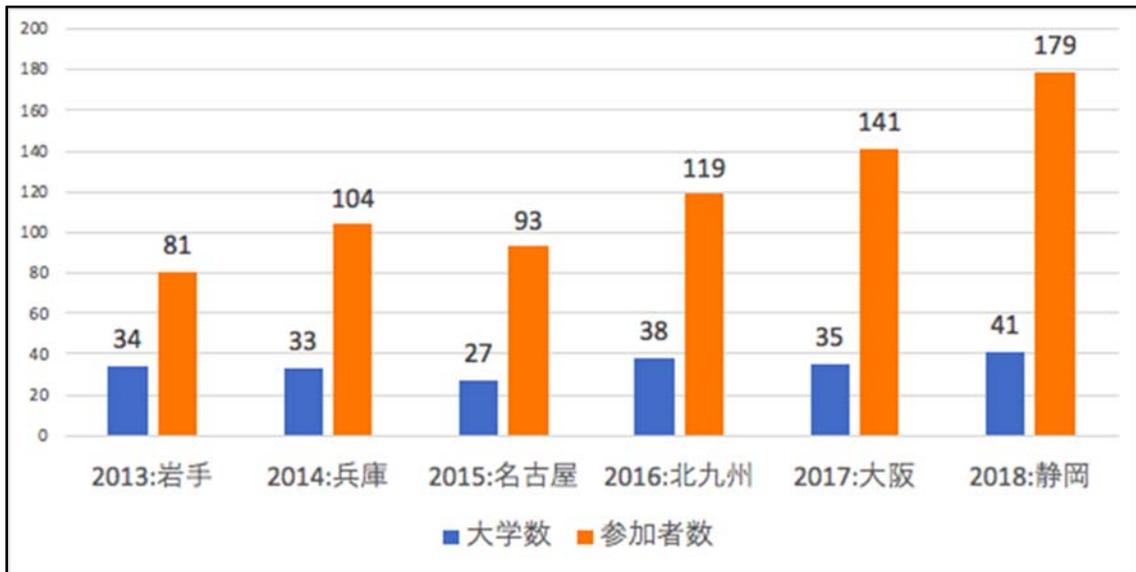
07:00~07:20	起床
07:20~07:40	朝の集い
07:40~08:40	朝食
09:00~09:30	スタートアップ
09:30~10:00	地域課題についての紹介
10:00~12:00	地域課題解決ワーク①
12:00~13:00	昼食
13:00~16:40	地域課題解決ワーク②
16:50~17:30	夕寝の集い
17:30~18:30	夕食
18:40~19:00	発表準備
19:00~21:00	発表(グループ代表選出→全体発表)
21:00~	入浴/自由時間/就寝

<大会 3 日目>

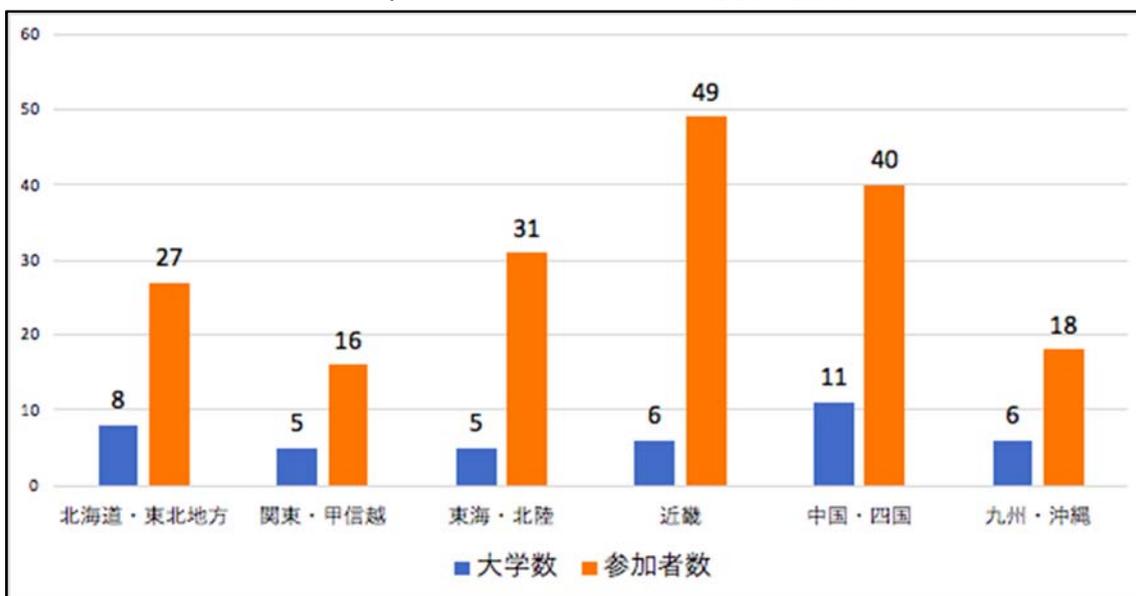
07:00~07:20	起床
07:20~07:40	朝の集い
07:40~08:40	朝食
08:50~09:00	退所式/移動
10:15~11:00	エリア別ディスカッション
11:15~12:15	ポスターセッション
12:15~13:00	ランチ交流会
13:40~14:40	学長セッション
15:05~16:00	クロージング

2.参加者の対象と推移

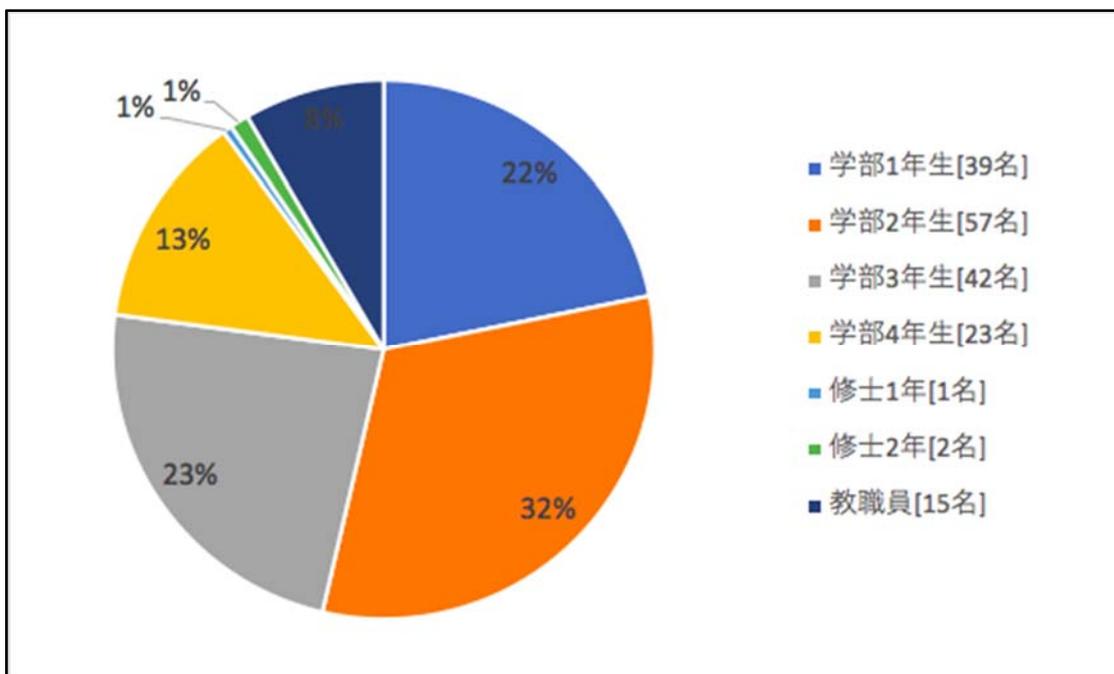
LINKtopos 大会別参加者推移



LINKtopos2018 エリア別参加者数



LINKtopos2018 参加者属性



3.活動内容とその成果

3.1 大会 1 日目

3.1.1 オリエンテーション

【LINKtopos2018 代表 秋田県立大学 システム科学技術学部 4 年 本田 和也】

○概要

オリエンテーションでは、LINKtopos の紹介、今年度の参加者の属性、スタッフ紹介、タイムスケジュール、アイスブレイクを行った。事前アンケートの結果より、LINKtopos という集まりがあることを参加者も把握しているが、実際にどういう人が集まり、何をするのかを把握していないことが分かってきたため、大会の初めに説明することが効果的であると考え、時間を設けた。また、アイスブレイクでは少しでも参加者の名前と顔を一致させ、繋がりを増やしていただきたい考えから、「100 マス交流」というものを採用した。制限時間内に 100 マスに自己紹介をした人の名前を入れていくという内容である。

3.1.2 エリア別活動紹介

〈北海道・東北エリア〉

【LINKtopos2018 学生委員 岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 4 年 池之上 槇哉】

○概要

「北海道・東北エリア」のエリア別活動紹介では、国際教養大学を除く北海道・東北地方の大学 7 大学と新潟県立看護大学、静岡県立大学の計 9 大学 13 団体が参加した。各団体 7 分間のパワーポイントによる発表を行った。参加者に付箋を配布し、発表者への質問や感想等を記入してもらった。記入したメモを参考に休憩時間に意見交換を行い、団体・個人間の交流を図った。

○成果

大学名は知っているが、何を学ぶ大学でどんな活動に力を入れているかをそれぞれ認識していなかった。しかし、同じ地域の大学の活動紹介を聞くことで、その課題を解決することができた。参加者それぞれ、力を入れている活動は大きく異なっているが、それゆえに興味を持って各団体の発表を聞くことができ、参加者同士の交流が生まれ、各団体・各学生への刺激に繋がった。

○課題

最初に発表した団体について、発表時間が残りわずかとなったときに、アニメーションを用いた説明を省略してしまった。その後の質疑応答には質問が出ず、質疑応答の時間に再びアニメーションを用いた説明を行った。次の団体から質疑応答を行わず、休憩時間で意見交換を行うことにしたが、事前に質疑応答の時間を設けないと決めるべきであったと感じた。また質問ができる雰囲気づくりが不十分であったとも感じた。

団体によっては、終了の合図であるベルを無視して発表を続ける団体もあったため、パワーポイントの提出の際に、目安となる発表時間をあらかじめ各団体に伝えるべきであった。

「北海道・東北エリア」のエリア別活動紹介であったが、参加団体数や時間の都合上、北海道・東北に属さない地域で発表を行った団体、北海道・東北に属しているが他エリアで発表を行った団体があったため、適した会場で発表を行えるよう調整を行う必要がある。

〈中部エリア〉

【LINKtopos2018 学生委員 新潟県立看護大学 看護学部 2年 大久保 奏】

○概要

中部地方と関東圏合わせて 11 団体が集まり、スライドを用いて活動紹介を行った。当日の秋田県の国際教養大学の到着時間の関係により新潟県立看護大学とエリアを入れ替えて実施した。発表は各大学5分間、質疑応答2分間と設定した。質問が多く出たため付箋を配布し、質疑応答の時間を無くし、その代わり発表後に余った時間で自分が質問したい大学の席に行って話をきくフリースタイルでの質疑応答・意見交換の場を設けた。

○成果

毎年交流があまりないとされている中部・関東エリアであるが、初めての参加者が多いということもあり積極的な意見交換になった。各団体の活動の進捗も様々であり、実際に商品化などを成功させている団体に対して直接アドバイスを求めに行く様子も見られた。LINKtopos への初めての参加者が他のエリアに比べて多かったため、学生間の交流が有意義なものとなった。

○課題

本来であれば東北エリアである国際教養大学と中部エリアの新潟県立看護大学を入れ替えて実施したため、楽しかったが少し残念だったとの声を聞いた。余った時間で実施した意見交換の場では積極的に他大学に話を聞きに行く学生がいた一方、なかなか話にいけない学生もいた。質疑応答の時間を発表後に一括で設けたことはよかったかもしれないが、やはり発表を聞いてその場で質問をした方が発表者も質問者も内容を覚えているのではないかとも思った。初めての参加者が多く最初は皆緊張していたため時間があればアイスブレイクを行うとより効果的であったかもしれない。



〈近畿エリア〉

【LINKtopos2018 学生委員 兵庫県立大学 看護学部 3年 小西 葵】

○概要

近畿地方の大学から 12 組集まり、パワーポイントを用いて活動紹介を行った。発表時間は 5 分間で、全ての発表が終わった後に円になって質疑応答を行った。質疑応答で時間が取れなかった団体には、事前に配布していたポストイットに質問内容を書いて渡してもらうようにした。

○成果

近畿エリアは活発な意見交換が印象的であった。発表の後、時間が余ったため、円になって意見交換をしたが、次から次へと手が上がり、他の学生への大きな刺激になったようであった。

○課題

発表は、多少の時間オーバーであれば切らずに話してもらっていたため、時間が読めず、タイムマネジメントに苦戦した。厳格に行うべきであった。円になった意見交換会も、議論が発展しすぎて最後のグループまでまわすことができなかった。質問人数もしくは 1 グループの質問の持ち時間を決めておくべきだった。発表の合間に質問の時間を設ける方がタイムマネジメントしやすかったかもしれない。質問内容を付箋に書いて渡して欲しいと伝えたが、メモとして利用している人が多く、実際に渡している様子はあまり見受けられなかった。時間が押していたということもあって、打ち合わせ通りにできなかったため、始める前に運営で話す時間を作る、もしくは時間が押した時の対応を事前に考えておく必要があった。



〈中国エリア〉

【LINKtopos2018 学生委員 香川県立保健医療大学 保健医療学部 2年 友高 将史】

○概要

中国地方の大学から 10 組、静岡県立大学と滋賀県立大学から 1 組ずつ、計 12 組の団体がパワーポイントによる活動紹介を実施した。事前に参加者に付箋を配布し、紹介に対しての質問等を記載してもらうようにした。集いや夕食を挟みつつ、発表終了後に付箋を活用して交流タイムを設けた。

○成果

「自分たちの近くで、公立大学生がどんな活動をしているのか」を知る目的から、今年度はエリアごとの分科会であった。学部や領域に関係なく集まったので、普段知ることのない/触れることのない部分の発表が聞いたことへの満足感を挙げる学生が多く見受けられた。また交流時間では付箋を活用したことにより、何を訊きたいかを整理できた点、交流時間内に訊けなかったことを活動後の自由時間に訊くことができた点が良かった点として挙げられた。

○課題

今回の活動紹介は 1 団体につき 5 分の持ち時間を設定した。事前にこの時間設定を案内してはいたが、発表途中で時間に達してしまう団体もいくつか見られ、もう少し長い時間を用意したほうがよいように感じた。またタイムスケジュールが押していたこともあり、分科会自体が遅れての開始となり、本来とるべき質疑応答の時間を交流時間と併せて行うこととなった。スケジュールが変更された場合の対処法についても事前準備しておく必要があっただろう。



〈九州・四国エリア〉

【LINKtopos2018 学生委員 兵庫県立大学 環境人間学部 3年 村尾 佳苗】

○概要

九州・四国地域の大学から 10 組と静岡県立大学から 1 組の団体が集まり、パワーポイントを用いて活動紹介を行った。発表時間は 5 分、質疑応答は 3 分で進行した。終了後は、質疑応答時間が足りず付箋にメモしていた質問や感想を伝え合ったり、近隣の大学との交流を行ったり、参加者が自由に使える時間を設けた。

○成果

今年は活動内容ではなく、地域別で活動紹介を行った。そのため、近隣の大学がどのような活動を行っているか知る機会になっていた。全員がパワーポイントでの発表であったので大変見やすく、内容も理解しやすいものであった。参加者の事後アンケートでは、「近くの地域の人たちの活動を知るきっかけになりよかった」、「他県の方たちの活動内容が知れて新鮮だった」、「同じ地域内でも、いろんな分野から地域にアプローチする方法があることを知ることができた」といった意見が出ていた。全体のポスターセッションだけで全部の団体を見ることは難しいため、近隣の地域の活動を深く理解できる良い機会になっていた。

また、最後にフリータイムを設けたことで、参加者が自由に交流する時間もできた。LINKtopos2018 が始まってすぐのプログラムであったため参加者もまだ緊張している時間であったが、「課題を共有することで今後のサークル活動について考えるきっかけとなった」、「連絡先の交換もできた」というようなフリータイムを活用できた感想も見受けられ、緊張をほぐせる充実した時間を過ごせたのではないかと考える。

プロジェクターの設置やパワーポイントについては、事前準備がしっかりできていたので滞りなく活動紹介を進めていくことができた。発表資料を事前に

回収していたのは成功であった。発表時間も参加者のみなさんがしっかり時間通り発表してくれたので、次のプログラムに余裕を持って臨むことができた。

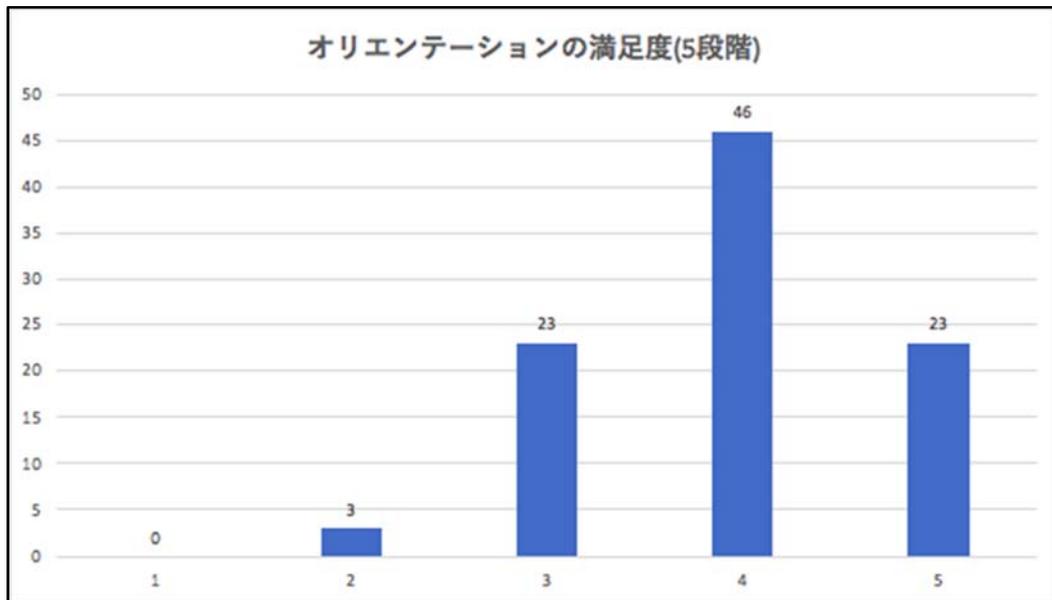
○課題

発表時間が5分しかないのはやはり少し短かったようであった。当初参加者には10分間のプレゼン時間を設ける予定であったが、運営の都合で5分に変更させてしまった。昨年も時間配分については課題になっていたもので、次年度も検討すべき課題なのではないかと考える。

また、「同じ地方だけではなく、全国の発表も聞いてみたかった」、「分科会は地域ごとではなく活動が近いもので固めた方がいいと思った」といった意見も見受けられた。地区別をこの方式にしている意義というものをしっかり伝えてから、活動を始めべきなのかもしれないと感じた。



3.1.3 1 日目事後アンケート結果/参加者の声



オリエンテーションについてのご意見・ご感想

LINKtopos の活動趣旨や 3 日間の活動の流れを把握できたため

初参加で緊張していたが、緊張がほぐれて良かった。

アイスブレイクにもっと時間使うことが出来たら交流の幅が広がると思った

緊張をほぐす時間があり、とても落ち着きました。

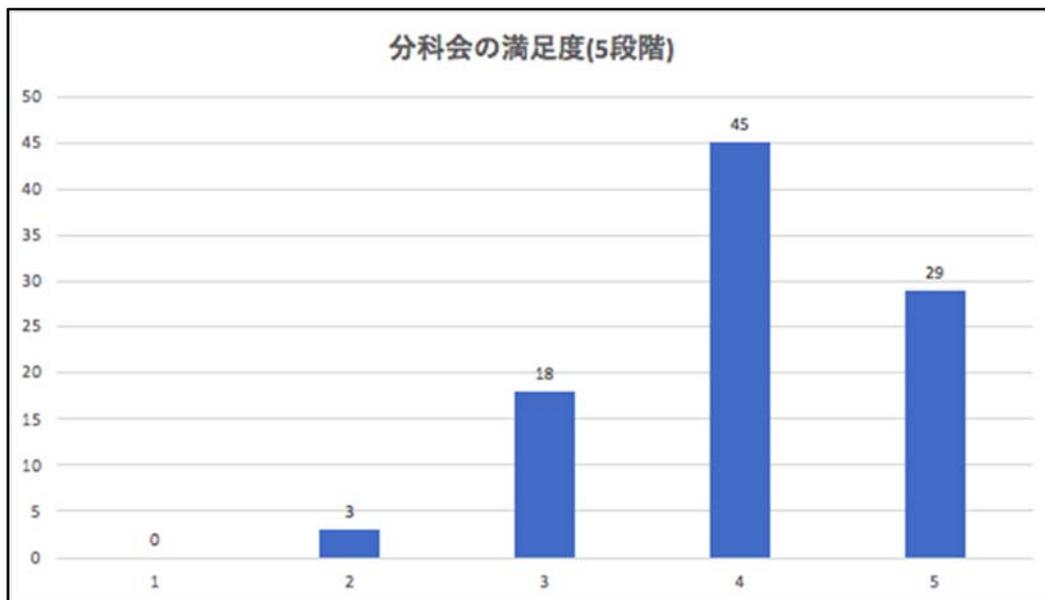
はじめて会う人ともためらわずに話すことができたのでよかった。

今から自分が行う活動を具体的に把握することができた。

100 マス名前入れる時間がもう少し欲しかったです。

100 人の名前を集めるアイスブレイクは全く機能していないように感じた。
名前を集める"作業"に必死で顔と名前を覚えなかった。

アイスブレイクが取り入れられていて、他大学の人たちと打ち解けるきっかけをつかめたのがとても良かったです。



分科会についてのご意見・ご感想

同じ地域の大学の取り組みを詳しく知れた

事前に参加する学校やサークル、団体、その内容など少しでも前もって知識があれば、もっと話を聞く際にイメージをして聞けたのではと思った。

近隣の学生の活躍を知れて良かった。また、発表の仕方やしぐさやしゃべり方が皆さん上手くて、とても参考になった。

時間制限が厳しかったが、これで良かった気もする。地区別もいいが、他の地区も見てみたかった。

エリア別に分かれており、自分の近くの大学の学生さんたちがどういう活動をしているのか知ることができました。また、課題を共有することで今後のサークル活動について考えるきっかけともなりました。

他の団体の発表を聞いた後に自由に話しができる時間のおかげで、連絡先の交換もできたのでとても楽しかったです。

近くの地域の人たちの活動を知るきっかけになりよかった！それプラス全国

のポスターセッションでは見切れないと思うので知る機会もあればよかったかなと思った。

同じ地域内でも、いろんな分野から地域にアプローチする方法があることを知ることができました

自分とは違う学部の人意見を聞くことができ、とても刺激になりました。もう少し質疑応答の時間があれば良かったです。

3.1.4 1日目総括

【LINKtopos2018 代表 秋田県立大学 システム科学技術学部 4年 本田 和也】

1日目は天候の都合等で遅れて参加する学生・教職員もいたが、皆無事に集合をすることができた。プログラムのはじめに行ったオリエンテーションでは全国の公立大学生や教職員が集まり、これから始まるプログラムに対して、楽しみや不安、様々な感情で緊張している学生・教職員の姿がみられた。アイスブレイクにより、その緊張が少しでもほぐれ、笑顔が増えたのは良い傾向であったと考える。

エリア別活動紹介は名前は認知している大学がどのような活動をしているのか知ることができた点、また参加者が積極的に質疑応答を行っていたため互いに活動を知り合える良い機会になったと考える。しかし、どの地域でも発表時間が足りないという声が上がっていた。事前に発表時間については伝えてあったが、それでも互いに熱が入り、時間が延長してしまったと考える。

3.2 大会 2 日目

3.2.1 スタートアップ

【LINKtopos2018 代表 秋田県立大学 システム科学技術学部 4 年 本田 和也】

スタートアップでは 2 日目の流れの説明とワークショップで用いる手法の説明を行った。この後のワークショップを円滑に進めるために必要な共有事項である。

3.2.2 ワークショップ

① 防災

【LINKtopos2018 学生委員 兵庫県立大学 看護学部 3 年 小西 葵】

○概要

静岡県職員であり、「ふじのくに」地域・大学コンソーシアムで大学連携や学生支援を行い、現所属の中部地域局では若年層の就業支援ほか地域振興を担当。また、プライベートでは、公立大学職員ネットワークに参画したり、若者ぶらっとホームやいぱる等を応援されている山本六三様を講師にお招きした。山本様と対談する形で、某高校教諭であり東日本大震災の他、岡山で水害復興ボランティアをしていた LINKtopos 岩手大会の当時学生メンバー、村田優様もお招きし、東日本震災や水害のボランティアの実体験を通じて、3つの視点（求められるコト、できるコト、やりたいコト）にカテゴライズしながら話ししていただいた。

○成果

今回は防災ボランティアを経験したことがない学生が多く、1.2 年生が主であったため、テーマの内容に対して経験豊富な人がワークショップを先導するというよりは、和やかな雰囲気色んな分野の経験を共有しながら進めていくような様子が伺えた。ファシリテーターを最高学年が務めるのではなく、2 回生が担当していることが多く、皆の意見を取り入れるような進め方をしてくれた。内容としては、山本様が導入して下さった 3 つの視点の円の中心を広げて

いくような企画にこだわったため、ボランティアをする側、される側共に利益のある実現可能な案が多く出た。発表の際も活発な意見交換が行われ、持つべき視点の共有ができた。

○課題

ブレインストーミング、ワークショップ、ワールドカフェ全て未経験である学生が多かったため、丁寧な説明が必要であると感じた。特に最初のブレインストーミングからのテーマ決めに苦戦しているグループが多かった。経験者と未経験者で最初の取り組みに差が出てしまうため、予め宿題としてこれらのやり方を勉強してきてもらうように伝えることで引け目を感じずに取り組めるかもしれない。

アクションプランの作成は個々自由に進めてもらうことでそれぞれにグループの特性が出た案になったが、実現までの過程が不明確であるところ、具体性に欠けるところなど、それぞれに異なった課題が残る形になった。ワークショップに何を求めるか（実現可能なものか、斬新なアイデアのものかなど）をしっかりと明確にし、判定基準を設けることも必要だと感じた。

② 地域から見た学生

【LINKtopos2018 学生委員 静岡県立大学 国際関係学部 3年 中瀬 侑華】

○概要

静岡県立大学「ふじのくに」みらい共有センター静岡みらい交流サテライト地域連携コーディネータの小山弘子様を講師にお招きし、地域づくりの現場から「草薙カイギ」のご紹介をしていただいた。

○成果

参加者の多くは各団体での地域活動を通して地域を見る経験はあるが、客観的に地域から学生を見るということにはなかった。このWSを行うことによって、普段行っている活動を客観的に評価することや、学生が地域活動を行う上での地域の方々との関係作りを学ぶことができた。

○課題

「地域から見た学生」というテーマからアクションプランを作成することが難しかったようで、具体例をあらかじめ準備し説明をするべきだった。また、

グループによりペースが異なるため、全てのグループを同じタイムスケジュールで進めていくことは難しかった。ある程度の時間の制約をつくり発表の時間までに完成できるようサポートをする必要がある。

③ 学生から見た地域

【LINKtopos2018 学生委員 静岡県立大学 食品栄養科学部 4年 小笠原 朝子】

○概要

静岡県焼津市出身で NPO 法人わかものまちなち代表理事の土肥潤也さんに「公立大学生と地域の関わり方」という題目でお話を頂いた。「地域と学生を切り離れた考えはそもそもどうなのか。」「学生は地域の一員なのではないか。」という切り口で、より主体的な地域との関わり方を考えた。自分たちの理想と現状を照らし合わせ、そのギャップをどう埋めていくかを模索した。

○成果

土肥様の興味深い体験談を聞くことができ、直後のブレインストーミングでは模造紙に張り切れないほどのたくさんの意見が出て、活発なワークショップになった。専攻分野や学年、地域などバランスの良いグループ編成であったため、様々な角度から地域との関わり方を考えることが出来た。また、自らの現状について話す時間を設けたことにより、より具体的な議論ができた。

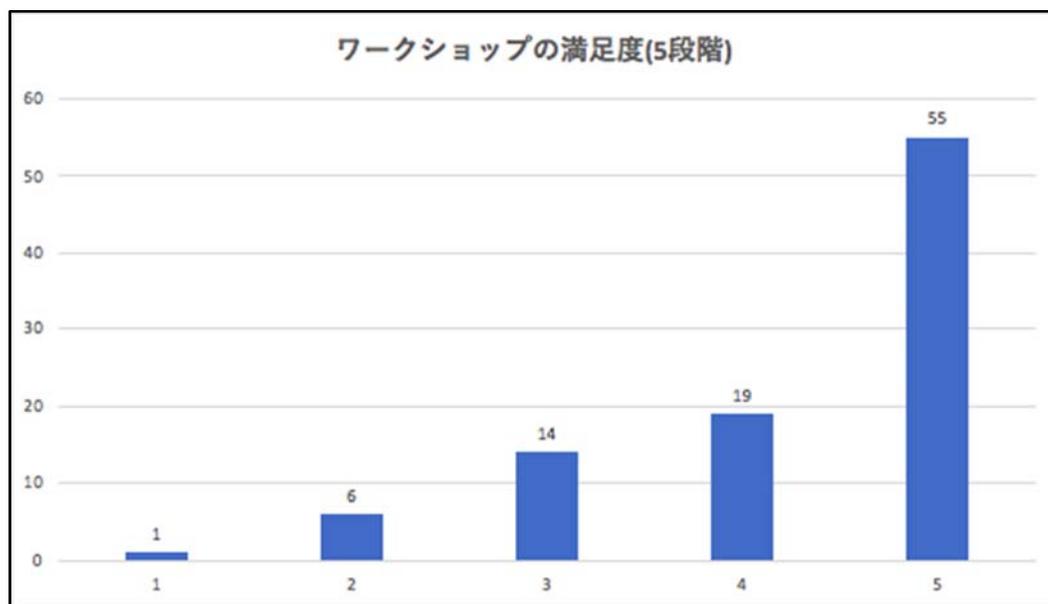
○課題

本テーマが漠然としていたため、解決課題の決定に苦戦しているグループが多々あった。

また、各グループで話しやすいように、こちらが提案した課題解決の方法を使うことを強制しなかったため、課題の根本まで議論が進んでいたグループと、そうでないグループとで差が出てしまった。

ファシリテーターとしては土肥様にフォローしていただくことが多く、かなり力不足を感じる結果となった。事前に自分でアクションプランを考えた上でどのようなアドバイスが必要か考察すべきであった。

3.2.3 2日目事後アンケート結果/参加者の声



ワークショップ(全体)についてのご意見・ご感想

ゼロからイチを作り出す過程を経験できてとてもためになった

全体の流れ（KJ法やワールドカフェの提示）があったことや、学年関係なく取り組めたので有意義だった

一人一人が色々な考えを持っていて、それを少人数のグループで話し合うことで、よりよい方向にアイデアがまとまって行く過程がとても楽しかった。苦勞した分、みんなでいいものを作ることができてとてもいい経験になった。

長かったが、その時間でも足りない程グループで討論ができて、有意義な時間となった。また他のグループの意見を見る・聞く時間が多く、より考えが深まった。

地域の枠を超えて、グループが組まれていて、普段の活動や住んでいる地域も異なる者同士で一つの解決策を考えるというのは難しさもあったが、面白かった。もう少し細かく時間と段取りを最初に提示してほしかった。

グループワークはとても良かった。ただ、スケジュールが詰まりすぎて最後の方は集中できなかった。

意識が高いメンバーと、熱心さを共有しながら活動できたことがとても良いことだと思った。密度の濃いワークショップになったと感じた。

他県の方たちと協力して話し合いを進めて行くのは緊張が大きくて、不安でしたが、みなさん優しく意見も沢山あって楽しかったです。

語り部さんのお話から派生した内容であったので取り組みやすかったですし、普段しないので大変楽しく参加させてもらいました。

班のみんなで話し合っ、最後にはいい発表ができたので、達成感ができた。

学生から見た地域のワークショップは、とても考えるべき点が難しく、じっくりくるような結論まで辿り着けなかったのが悔しかった。

質疑応答が学生同士で遠慮がなく、より深く知ることのできるものであったことが印象に残りました。

ハードスケジュールでしたが、運営の方のファシリテートが素晴らしく、最後は良い感じにまとめ上げることができました。

全員が初対面だったが、学年を最後まで聞けなかったことで気軽に発言することができた。最後の発表では、グループのみんなに質問対応や発表中の態度を褒めてもらえ、参加された先生方にも公立大学協会という着眼点をいいと言ってもらえた。満足。

タイムスケジュールや、全体の進行が手際良かったので、グループの提案をまとめやすかったです。

3.2.4 2日目総括

【LINKtopos2018 代表 秋田県立大学 システム科学技術学部 4年 本田 和也】

アンケートより多くの参加者が充実した時間を過ごすことが出来たといえる。しかし、参加者の声より、充実はしたが時間が足りない、2日間かけてやりたかった、スケジュールが過密すぎたという時間が1日では足りないという意見が多数見受けられた。限られた時間で話し合うことも必要なスキルであると考えていたが、その説明をスタートアップで設けていなかったためこのような意見が出てしまったと考えられる。

グループ分けについては、一部のグループは地方や学年の偏りが出てしまったが、多くのグループは偏りがみられず高い評価を得ることが出来た。今回のグループ分けの基準はワークショップやファシリテートの経験の有無より、円滑にワークショップを進められる工夫を行った上で、出来る限り学年と地方が違うようにグルーピングした。結果7割程度の参加者には満足していただくことが出来た。

3.3 大会 3 日目

3.3.1 エリア別ディスカッション

<北海道・東北エリア>

【LINKtopos2018 学生委員 岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 4年 池之上 槇哉】

○概要

「北海道・東北エリア」のエリア別ディスカッションには 8 大学から 27 名が参加した。全員で簡単な自己紹介を行い、LINKtopos2018 に参加した感想を共有した。その後、東北 LINKtopos について会場をどこにするか、内容をどうするかなどを話し合った。

○成果

1 日目で顔合わせはしていたものの、それぞれの参加経緯や名前などは把握していなかったため、エリア別ディスカッションを通して、全員がつながることができた。各大学・団体の感想や感じたことを共有することで、仲が深めることができ、また自分の考えを整理することができたなどの声もあった。

東北 LINKtopos に参加を検討する LINKtopos 参加者で連絡先を共有し、東北 LINKtopos への参加を促すことができた。

○課題

感想の共有は全て口頭で行われたため、可視化して持ち帰れるものにしたいという声があった。大会後、各団体内で共有するためにも形にするべきであったと思う。

また、東北 LINKtopos の運営や参加について参加者の多くが消極的に感じられた。前年度に行われた東北 LINKtopos の参加者が複数名いたため、全員で東北 LINKtopos についてより理解しやすいよう、その参加者から感想や意見を話してもらおうなどの工夫が必要だったと感じた。

<中部エリア>

【LINKtopos2018 学生委員 静岡県立大学 国際関係学部 3年 中瀬 侑華】

○概要

東海エリアの大学で行った。今回の LINKtopos で感じたことの共有から、今までに東海エリアでのリンクトポスが行われていない事をふまえ、今後東海地区での LINKtopos をやっていきたいか、またもし行うとしたらどんな内容がよいかなどを共有した。

○成果

成果としては、今回初めて参加したが、周りがどんなことをしていたり、考えたりしているかが分かってよかったという前向きな意見がとても多かった。一方で、東海 LINKtopos の件になると、「全国でやっているほうが感じる人が多い」とか、「大学が集まるのか」などの消極的な意見が多かった。これまでもこのような消極的な意見から東海 LINKtopos は行われて来なかったのかもしれない。

しかし、消極的な意見だけではなく、もし東海地区で行うのであれば、東海地震の対策について考えたり、地域の長所を伸ばしたいなどの意見も出た。

○課題

課題としては、上記のように地域の長所を伸ばしたいという気持ちを持っているにも関わらず、その機会を実行するまでに至っていないことである。東海 LINKtopos がどういうメリットがあるのかをもっと伝えていくべきだった。

<近畿エリア>

【LINKtopos2018 学生委員 大阪市立大学 文学部 3年 福田 瑞月】

○概要

近畿エリアの 6 大学 40 名で行った。人数が多く、同一教室で中部エリアのディスカッションも行っていたため、少し話しにくい状況であったと思われる。また、静岡大学への移動中にバスで大学内での意見共有を行った。

近畿では今年度の全国 LINKtopos の前にエリア別 LINKtopos を開催した。そのため、これ以降も地域別 LINKtopos が開催されるような意見を共有した。

○成果

他大学の学生が LINKtopos をどう感じたのか知ることができたという感想があった。また、同じエリア内なので今後の交流につながる話があったという

意見もあった。“エリア毎にすることでより頻繁な交流を促す”という目的にかなった結果だと考えられる。

現時点で近畿 LINKtopos 開催にむけて、実行委員が動いている。今回の全国 LINKtopos で得た経験が活かされ、近畿で新しいつながりが生まれていくよう見守っていきたい。

○課題

近畿エリアは人数が多く、十分な時間を確保できなかった。そのため、個人のフィードバックの内容が薄く、集まって話す必要があったのかという声もあった。参加者が多く様々な面から意見を共有することができるという近畿エリアの利点を生かし切れなかったことは残念である。

<中国・四国エリア>

【LINKtopos2018 学生委員 香川県立保健医療大学 保健医療学部 2年 友高 将史】

○概要

中国・四国エリアの11大学で行った。LINKtoposに参加しての感想を述べてもらい、大会終了後に自分はどんなことをしたいかという意気込みも語ってもらった。また終盤には地域別 LINKtopos の開催についての意見交換をした。

○成果

参加者の多くが「自分の学習領域とは異なる人たちとの交流で、新たな視点や構想を知ることができてよい刺激になった」という感想が出た。1日目の分科会を敢えて分野関係なく割り振った効果が出ていると思われる。加えて、同じエリアの他大学が、自身と似たような活動をしていたという発見ができたことへの嬉しさを述べる参加者も見られた。ここで生まれたつながりが、地域に戻っても活かされると良い。

また、地域別 LINKtopos についてもほぼ全ての参加者から意欲的な姿勢が見られた。

○課題

エリア別ディスカッションの部屋までの移動にてこずってしまったため、少々開始時刻が遅れてしまった。そのため、最後がやや燃焼しきれずに終わっ

てしまったように思われた。これに関しては担当である私の確認不足であり、参加者の皆さんに申し訳なく思っている。

地域別 LINKtopos に関して「ぜひ開催してほしいが、今の状態では方針が不透明なのでは？」という指摘が出たので、その点についても今後検討していきたい。

<九州・沖縄エリア>

【LINKtopos2018 学生委員 長崎県立大学 地域創造学部 3年 仲島あかり】

○概要

九州・沖縄エリアの5大学17名で大会の感想や振り返りを述べてもらい、大会運営や日程に関する気づき出たため、来年度の運営の参考にもなった。初参加の学生や1、2年生が多かったため、来年も参加したいと話す参加者が多くみられた。

○成果

1日目の地域別の活動紹介では、同じ地方でもこれだけ種類や活動に特色があることに驚いた、コラボしてみたいなどの声が挙がった。また活動紹介後の質問タイムで細かい活動やその団体の課題などを共有できる時間があったことが大きかった、という意見が出た。自分たちの活動を紹介する場がなかなか無く、ポスターセッションという近いところで紹介でき、時間が限られていたものの、硬くならず表現できたのでよかったという意見がでた。

九州沖縄 LINKtopos の開催もしたいという声が出たことが一番の成果ではないかと考える。全国版で熱をピークに持ってくるのも大事だが、各大学や地域にフィードバックしたとき、もっと近い存在の中で熱を保ち、また再スタートができるような九州沖縄 LINKtopos を開催したいと考えている。

○課題

教室の移動やスペースが限られていた中でしっかりまとめることができたが、時間の余裕がなく、もっとじっくり話したかったと個人的ではあるが感じた。また運営側も場所の把握をしっかりやっておかなければならないと反省として考える。

3.3.2 ポスター発表及びランチ交流

【LINKtopos2018 学生委員 静岡県立大学 食品栄養科学部 4年 小笠原 朝子】

○プログラムの設定の背景

参加者の日頃の活動を題材としたポスターセッションを行った後、学長と学生が同じテーブルに座り、昼食をとるというものである。昼食の席は地区ごとで場所が決められている。

昼食中、学生は普段の活動の話を学長に話すことができ、学長は学生の生の意見を聞くことができる。これは普段大学で生活をしているだけでは決して得ることのできない貴重な時間であり、学生にとっても学長にとっても有意義な時間となり得る。

○目的・意図

- 1.ポスターセッションによって日頃の活動の振り返りと意見交換を促す。
- 2.学生は、普段の生活では関わることのできない学長と直接話をするこ
とで、活動へのモチベーションを高める。学長は、自大学の学生が行って
いる活動を知ること、学生への理解を深める。
- 3.近隣地域の学長・学生と交流することで、地域間での連携を強める。

○手法

- ・北の大学から順にポスターを掲示し、発表の時間を設ける。
- ・学長と学生が同じテーブルで食事をする場を設ける。

3.3.3 学生・学長合同シンポジウム

【LINKtopos2018 代表 秋田県立大学 システム科学技術学部 4年 本田 和也】

平成30年度第1回学長会議の場に公立大学学生ネットワーク大会に参加した学生・教職員も同席した。これはこのLINKtoposの強みの一つである。

まずはじめに荒川副会長から司会進行及び本大会の概要説明をして頂いた。

その後、平成30年度LINKtopos学生代表である本田(秋田県立大学4年)より今年度大会の活動報告を行った。3日間の活動の内容やその成果、これま

での LINKtopos の歩み、そして今後の展望を出席して頂いた学長に向けて紹介した。

また今年度は、新たな取り組みとして開催校である静岡県立大学の 1 団体とポスターセッションの投票にて最優秀であった団体 1 組に学長の前で発表し、意見をもらう機会を設けた。

3.3.4 クロージング

【LINKtopos2018 代表 秋田県立大学 システム科学技術学部 4年 本田 和也】

○概要

各大学ごとで振り返りを行う時間を設けた。ただ、今年度は1大学から1人だけの参加もあったため、席は各参加者に任せ、隣同士で話し合うように誘導する。基本的に大学や団体ごとでまとまって行動していたため、各大学ごと+1人での参加者へのフォローにも繋がった。

また、クロージングムービーを流し、映像で3日間を振り返る時間も設けた。

最後に運営メンバーからの大会運営の振り返りのコメントをする時間も設けた。運営メンバーの声より、運営スタッフの充実さを伝え、来年度のメンバー募集にも繋がれたらとの想いのもとである。

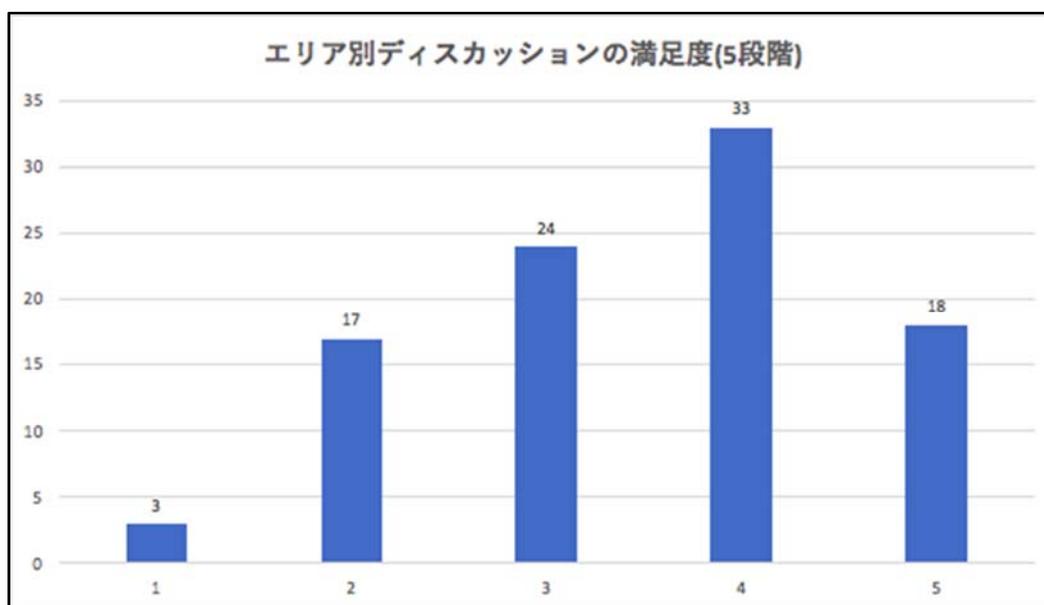
○成果

以下の参加者の事後アンケートより最初の大学ごとでの振り返りはあまり有用でなかったと考える。また、クロージングムービーにて3日間のプログラム内容を振り返ることができたという意見を多数頂けた。また、運営メンバーのコメントより、感動して頂けた意見も多数あったため、運営の魅力も伝えることが出来たと考える。

○課題

クロージングでは各大学での振り返り、全体でムービーでの振り返り、スタッフの1年間の振り返りを行ったが、参加者としては時間が長すぎたと意見が多かった。どれも欠かせない内容だと思うが、参加者の帰りのことも踏まえてクロージングの時間を最小にするのも手であると考えます。

3.3.5 3 日目事後アンケート結果/参加者の声



エリア別ディスカッションのご意見・ご感想

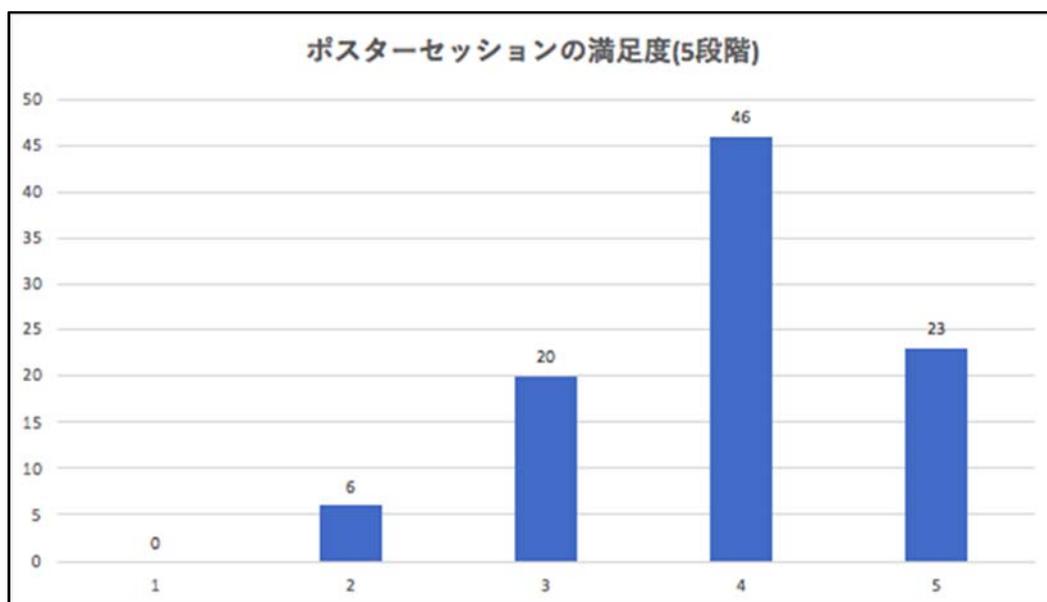
他大学の学生さんが2日間でどう思ったか感じたのかが聞けて良かった。

全国から集まった人たちと交流するのはもちろん大切だと思うが、エリア別だとコラボや訪問といったことも実現しやすいと思うので、来年以降もエリア別の時間は是非作ってほしい。

ひとりひとりのフィードバックを聞き、違う視点で振り返ることができました。

一日目と違い、皆のことを知った上でのディスカッションできたのは良かったと思います。

振り返りもブレインストーミング形式などで、他のグループの意見も含めて、可視化して共有できると良いと思いました。



ポスターセッション(発表)のご意見・ご感想

全国の学生さんの活動を直接聞くことができ良かった。もっと回りたかったという気持ちもある。

全ては回れないのが残念だったが、質問や発表者とのコミュニケーションがとりやすい形は良かった。

1人参加の団体は忙しいと感じた。他の団体の発表を聞ける時間があるのは良かった。

学生も発表を見て回れるようになったのは、とても良いことだと思う。エリア別では見れなかった興味のあるところの発表も見れて◎。発表時間もちょうどよかった！

自分達の活動してきたことを、他のみんなに伝えることができたので、かなり楽しかったと感じた。

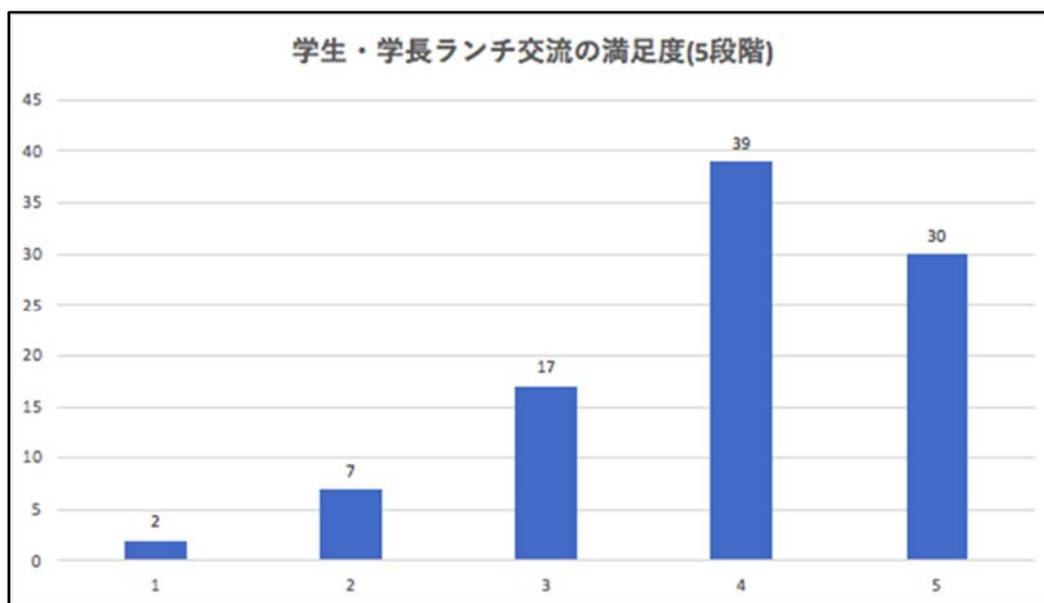
隣同士の間隔がせまく、聞きに行きたいのに近くに行けないというシーンをいくつか見かけました。

学長との交流は滅多にないのでいい機会だった。

様々な大学での取り組みが知れて良かった。来年度もぜひ実施してほしい。

他大学の活動を知ることができただけでなく、プレゼンの仕方も学ぶことができてとても良かったです。

自分の課題を見つける良い機会となりました。



学生・学長ランチ交流会のご意見・ご感想

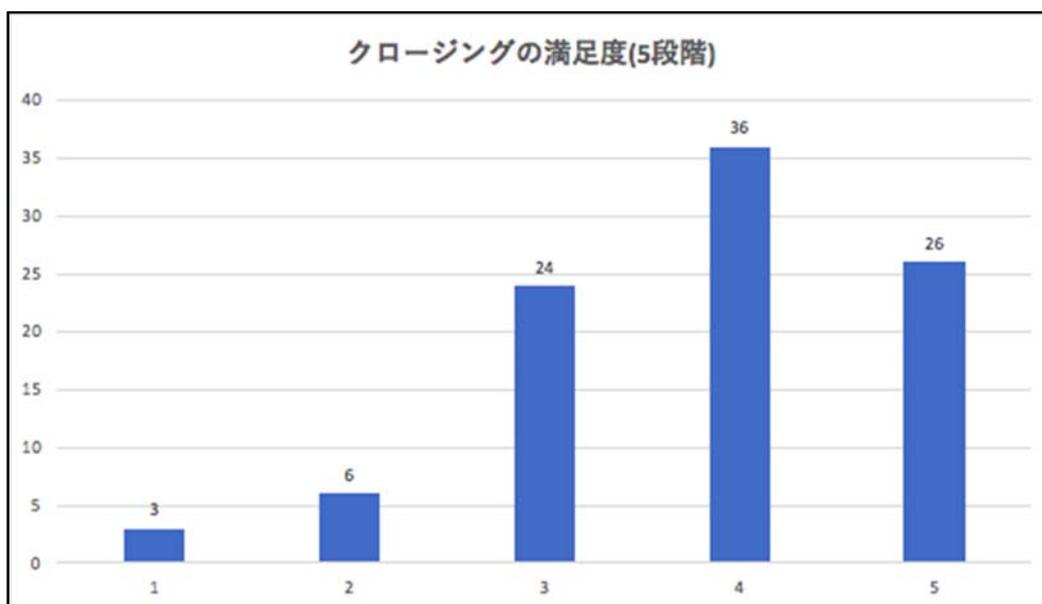
緊張してあまり話せなかったが、貴重な時間ではあった。

自大学の学長とフラットに話す機会はこれまでなかったので、いい機会だった。

他大学の教授から声をかけていただき、自分達の活動に自信が持てました。

近くの学長さんと交流は良いが、せっかくなら少し離れた学長さん、学生さんとも話したい

お弁当がとても美味しかった。他の大学の学長の方との交流もできたらいいと思う。



クロージングのご意見・ご感想

運営さんのコメントを聞き、また3日間の活動の動画を見てとても感動した。

写真の編集など大変だったと思うが、最後の動画はとてもよかった。

感動しました。詰め詰めの内容盛りだくさんの3日間ありがとうございました。

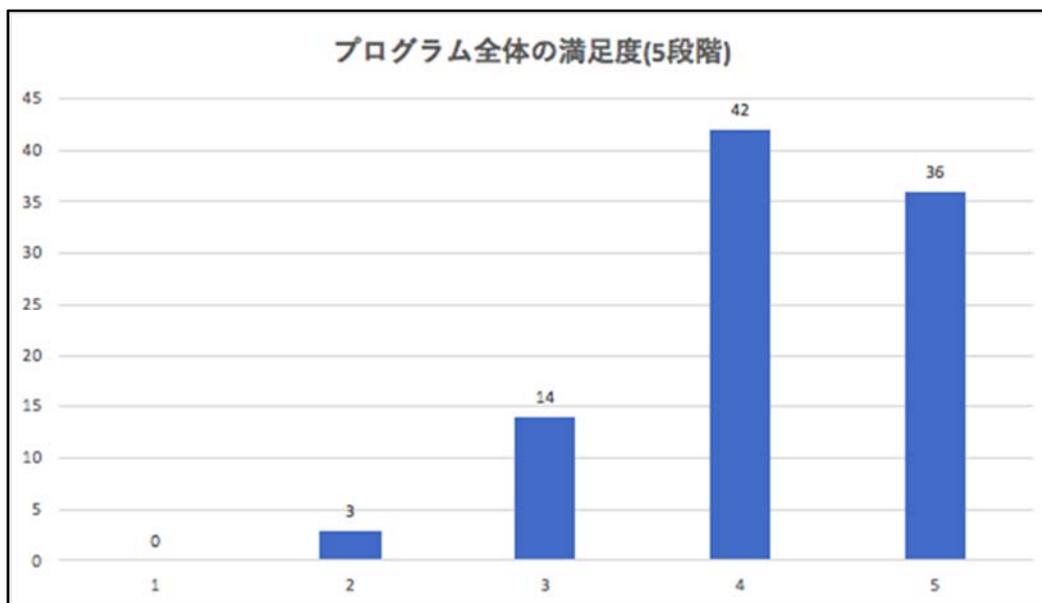
みんなに感想聞いたり、運営メンバーにありがとうをいう場面があったり、とても印象に残るクロージングでした。

ぜひクロージングでアンケート集計をしていただきたかったです。

運営メンバーが楽しそうで、この大会はいい大会だと感じた。

3.4 プログラム全体を通して

3.4.1 プログラム全体の事後アンケート結果/参加者の声



プログラム全体の進行のご意見・ご感想

過密スケジュールだったが、それも良かった。

ハードスケジュールな中、みんなとても集中し、本当に LINKtopos のことだけを考えた、濃い濃い3日間となった！

時間がかつかつ過ぎて少し苦しかったです

ポスターセッションの取り組み方の改善と、ワークショップの議題をもう少し考えやすいのものにするともっといい機会になると思います！

3日間がとても短く感じるほど楽しかったです。進行もスムーズでわかりやすかったです。ありがとうございました。

内容がたくさんあって、たしかに常に考えている状態になった。ただ、もっと余裕のあるプログラム内容になっていたら、多少の時間のずれが生じても対応できたのではないのでしょうか。

施設の都合上仕方ないが寝食はもう少しゆとりがほしかった

当日配られたスケジュールの書かれた冊子、1週間前くらいに欲しかった。

程よい忙しさがあり、3日間 LINKtopos のことだけを考えられたことがとても良かったです。

アイスブレイクや、ワークショップのファシリテーションなど、色々な工夫を感じることができて、大変勉強になりました。

3.4.2 プログラム全体の総括

【LINKtopos2018 代表 秋田県立大学 システム科学技術学部 4年 本田 和也】

本大会では「つながり、つなげる」をテーマとした。「繋がり」を大まかに分けて、3つ作りたいと考えていた。1つ目、大会中に参加者同士で繋がること。2つ目、大会後にも各団体で繋がり、それぞれの活動に活かしてもらうこと。3つ目、参加者の後輩らにこの LINKtopos を繋げてもらうこと。これらは全てその当日でできることではない。今回の LINKtopos を通して、団体としての活動や私生活に繋げていく。そうすれば LINKtopos はその3日間だけのものではなく、参加者や団体の今後に大きく影響していくものとなる。基本的な活動はそれが終わると熱量が下がってしまうのが、多くの団体の悩みである。その熱量が冷めないように我々のプログラムでは「繋げる」ということを重きに捉え、プログラムを組んだ。アンケート結果は一部、大変だったという意見がありつつも8割以上の参加者の満足度が高いものとなった。

4.次年度以降の学生大会開催に向けて 課題、課題への提言

【LINKtopos2018 代表 秋田県立大学 システム科学技術学部 4年 本田 和也】

今大会を踏まえた課題は全部で3つある。

① 参加者への制限について

今年度の大会は「より多くの人に、つながりを」を目標に広報を行っていた。その結果、過去最大規模での開催が実現することができた。しかし、実際にはある大学では参加者10名、ある大学では参加者1名と参加大学によってかなりの偏りが生じてしまった。プログラムを進行する上でグループ分けを幾度か行うが、どうしても普段の知り合いと被ってしまう。するとその学生にはどうしても勿体無い想いをさせてしまう。

今後のあり方として、このLINKtoposでの経験を各大学・団体へ還元していくことが熱量の継続に繋がると考えるため、各大学での参加人数を制限するののも一つの手である。例えば、各大学の参加の最大人数は3名までにするなどである。すると、大会への参加者自体は減少してしまう可能性はあるが、全国の学生と密接に関わることは可能になっていくと考える。

② 各地域への継続的な支援について

今大会は特に地域間での連携の強化を狙ったプログラムとなっている。ただ、今回のプログラムだけで今後の関係の継続に繋げるのは酷である。今年度はそこがうまく作動しなかったが、来年度以降は大会後のフォローも考えていく必要がある。具体的に言えば全国大会だけでなく、地区別LINKtoposへの促しや、プログラムへの介入も必要があれば行う必要があると考える。

③ 開催時間について

参加者の一部から帰りの時間が迫っているため最後のクロージングのプログラムに参加できないとの声があった。一応プログラムの時間については事前に伝えてはいるが、それでも終了時間が15～16時になると主に九州地方の参加者は帰ることができなくなってしまふ。プログラムの規定時間までは参加者に参加してほしい想いもあるため、元から終了時間を早めることも検討の余地があると思う。

5.全国公立大学学生大会の今後の展望 について

【LINKtopos2018 代表 秋田県立大学 システム科学技術学部 4年 本田 和也】

今後の展望は大きく分けて4つある。

① 全ての公立大学の学生が本大会に参加すること

本大会は公立大学の特徴の一つである、地域に根付いた大学、地域貢献を行っていくために互いの活動の情報共有など、公立大学として極めて重要な意味を持つ大会である。本年度はより多くの参加者を集めることを一つの目標としており目安が「過去最大規模の大会」であった。また、今年度は全国の大学の約半数が参加している。少しずつ増えていった参加大学数もようやく半数を超えた形となった。現実的に全ての公立大学が参加することは可能になってきていると考えるため、2～3年以内には実現して行きたい。

② LINKtoposの熱量をさらに継続できるようにすること

LINKtoposだけでなく、大会やイベントはその日に熱量が最高潮に高まり、その後は徐々に低下していくのは多くの団体の悩みの一つである。これまでLINKtoposではその熱量を継続していくために「地区別LINKtopos」というものを開催してきた。地区別LINKtoposとは本大会を経験後、地区ごとに再度集まり、どう活動に影響があったのかなど互いに経過報告等をする場としても用いられている。熱量を継続していくため、地区別LINKtoposも全地区で行えるように支援して行きたい。

③ 近隣大学同士でのつながりを強化すること

全国の学生と知り合い、繋がれるのが本大会の強みの一つでもあるが、繋がれていても互いの団体でLINKtopos後もつながり、互いに切磋琢磨して活動し合えるとさらに良くなっていくと考える。運営としてプログラム中に地区別の強化をはかるとともに企画を練る時間を設けていけると良いと考える。

④ ワークショップでの企画を実現する

LINKtopos では近年、2 日目に 1 日をかけてワークショップを行っている。このワークショップでは見知らぬ人とグループを組み、1 つの課題に対して色々な対策案や改善案のアイデアを出している。それは互いに色々な考え方がある多様な価値観や考え方、視野を養うことを目的に行っているが、良い案がいくつも上がっている中でそれらに対しては特に目を向けていないのが現状である。今後の展望として、これらの案を運営スタッフや支援者と見直し、実現可能なものにしていくことが熱量継続等にも繋がっていくと考える。

6. 謝辞

平成 30 年度全国公立大学学生大会 LINKtopos の開催に際して、ご指導・ご支援をいただきました公立大学協会ワーキンググループ委員の先生方、公立大学協会の事務局職員の皆さま、そして会場運営に協力していただきました静岡県立大学の学生・職員の皆さまに。この場をお借りして御礼申し上げます。

今年度で 6 年目となりました、本大会も盛況で終えることができたのは、参加していただきました学生・教員・職員・学長の皆さまのご協力とご理解があってこそそのものと感じております。改めて協力していただいた多くの皆さまへ、心から感謝の気持ちと御礼を申し上げます。

平成 30 年度 公立大学学生ネットワーク 代表
秋田県立大学 4 年
本田 和也